

■ 第7期事業計画、令和6年度業務実施計画の作成

- 第7期事業計画、令和6年度業務実施計画等を作成し、EPO 中部ウェブサイト及び中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイトに掲載・公開した。掲載 URL: <https://www.epo-chubu.jp/about/target>

■ EPO 中部・中部 ESD 支援センター運営委員会の設置・開催

- 下記の通り、2回の会議を開催し、EPO 業務・ESD 業務について意見交換及び諮問を行った。

会議		開催日	主な議事等
EPO 中部・中部 ESD 支援センター運営委員会	第1回会議	5月29日 オンライン	運営委員会設置要領について／令和6年度業務実施計画について／EPO・ESD 業務の事務局案について
	第2回会議	2月12日 オンライン	令和6年度に実施した EPO・ESD 業務について

■ 基本業務

■ ホームページの更新及び維持管理

	URL	年間更新回数・計	年間アクセス数(ページビュー数) 単位:件					
			2024 年度	2023 年度	2022 年度	2021 年度	2020 年度	2019 年度
EPO 中部ウェブサイト	<a href="http://www.epo-chubu.jp">http://www.epo-chubu.jp</a>	706 回	27,216	32,143	31,134	32,185	※ 501,670	※ 860,157
中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイト	<a href="https://chubu.esdc-enter.jp">https://chubu.esdc-enter.jp</a>	325 回	7,793	11,947	10,948	13,575	13,132	12,251

※ 2020 年度に実施した EPO 中部ウェブサイトのリニューアルの際に、アクセス数の照会元を Google アナリティクスに移行。(従来の照会元であるサーバー会社によるアクセスレポートが特殊なシステムでページビュー数を集計していたため、一般的なページビュー数を把握できる Google アナリティクス参照に変更した。)上表中の※印の数値は、サーバー会社のアクセスレポートによるデータである。

■ 収集・整理・蓄積した情報の発信

- 毎月1回メールマガジンを発行しており、配信済みのバックナンバーを EPO 中部ウェブサイトに掲載している。  
(<https://www.epo-chubu.jp/mail-magazine>)

	年間配信記事数・計	今年度配信したメルマガ記事数				
		冒頭部 (EPO 関係記事等)	イベント 関連	ツール・コンテンツ	助成金・ 表彰等	その他
2024 年度に配信したメルマガ (毎月第2火曜日発行)	460	29	220	42	140	29

■ リーフレットの発行・配布

- 第6期に作成した原稿をもとに、第7期の目標・役割を掲載する改訂を行ったリーフレットを作成し、主催イベントや打合せなどで、計・約 460 部を配布した。

第7期の目標・役割を掲載

The image displays a collection of materials related to the EPO Chubu office. On the left is a brochure titled '第7期の目標・役割を掲載' (Publishing the 7th Period Goals and Roles), which details the organization's objectives and roles for the 2024-2026 period. In the center is a map showing the location of the EPO Chubu office and the Chubu Regional ESD Support Center. On the right is a contact page for EPO Chubu, providing phone numbers, email addresses, and website information for both the office and the support center. The EPO Chubu office is located at 4-3 Nishimaru, Nishimaru-cho, Nishimaru-ku, Gifu City, Gifu Prefecture. The Chubu Regional ESD Support Center is located at 4-3 Nishimaru, Nishimaru-cho, Nishimaru-ku, Gifu City, Gifu Prefecture.

## 照会・相談対応（年間合計件数）

照会・相談対応						対話の体制の構築		照会・相談対応の延べ件数 + 対話の体制の構築件数
事例件数※ 相談に対し支援対応等を行った案件	照会・相談対応等の延べ件数	来館件数 延べ件数※	相談・照会、資料配架依頼等	会議利用	メール・電話による相談・広報依頼等 延べ件数※	地域活動への招聘	会議・セミナー等	
						44	216	66

※1）事例件数：最初の連絡から対応終了までの（その間の連絡・打合せ等を含めた）案件ごとにカウントした数。

※2）延べ件数：同じ案件・用件であっても、来館、メール・電話等の接触回数等を個別にカウントした数。

## 施設・設備の維持管理（年間施設利用件数）

業務実施日数	開館日数	来館者数	来館件数	メール・電話による問合せ件数
245 日	228 日	113 人	66 件	150 件

## 協働取組の促進のための業務

### 2024 年度に主催したイベント・会合等

催事名	開催地	設営	開催日	参加者	実施内容等
地域循環共生圏づくり支援セミナー(2024)	愛知県名古屋市	オンライン/アーカイブ	1月27日	ライブ時点27人 継続配信	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域循環共生圏づくりとは…NPO 持続可能な社会をつくる元気ネット・鬼沢先生</li> <li>地域経済循環分析・指標分析ツール…価値総研</li> <li>登壇者によるトークセッション</li> </ul>
地域循環共生圏フォーラム in 上市町 みんなで描く！ “つながる、めぐる、上市町(全2回)	富山県上市町	リアル	12月7日	28人	<ul style="list-style-type: none"> <li>富山県の協働コーディネーター2名による連携企画</li> <li>第1回：ワークショップ編</li> <li>第2回：発表&amp;ディスカッション編</li> </ul>
		リアル	2月22日	34人	
協働コーディネーター意見交換会	愛知県名古屋市	リアル	8月28日	9人 クローズド会合	<ul style="list-style-type: none"> <li>話題提供：中部事務所、(共生圏事業)丹南・長野、(EPO 共催共生圏フォーラム)ネクストステップ研究会</li> <li>地域活動の課題感共有ディスカッション など</li> </ul>

※出席者は事務局（中部地方環境事務所、EPO）を除いた人数（以下、同じ）。

#### 地域循環共生圏づくり支援セミナー（2024年度：入門編）

- 1月27日にオンラインセミナー「地域循環共生圏づくり支援セミナー2024」を開催・配信。
- 前半プログラムは、NPO 持続可能な社会をつくる元気ネット・鬼沢先生（地域循環共生圏事業有識者会議議長）の講演、環境者が公開している地域経済循環分析・指標分析ツールの紹介（価値総研）。後半プログラムは、前半講師と④活動評価手法検討WKGメンバーによるトークセッションを実施。
- ライブ配信での参加者は、zoom参加・YouTube自由視聴合わせて27人。
- 動画はアーカイブ公開中（<https://www.youtube.com/watch?v=2903k0t>）、さらに後半「トークセッション」は冊子にし、取組主体に活用いただく「ツール」として公開予定。
- 2024年度は地域循環共生圏づくり入門(仮)と位置づけ、次年度以降は下記コンセプトのセミナー展開を想定。
  - 2025年度：中間支援に焦点をあてた中級編(仮)
  - 2026年度：総括編(仮)



#### 地域循環共生圏フォーラム in 上市町（全2回）

- 富山県上市町で、12月7日に第1回、2月22日に第2回「地域循環共生圏フォーラム in 上市町」を開催。
- 企画・運営に、富山県の協働コーディネーターである PEC とやま・塚氏と、(株)ティーツリーコミュニケーションズ・茶木氏が協力。
- 第1回はワークショップ編として、塚氏によるファシリテーションでローカルSDGs事業のアイデア出しを実施。上市町の地域づくり会合「ハッピー上市会」を中心とする参加者28人が参加。
- 第2回の発表編には34人が参加。第1回で提案されたローカルSDGsアイデアを実際の参加者が発表した。



#### 協働コーディネーター意見交換会

- 8月28日に、EPO 中部・協働コーディネーター6名（及び、オブザーバーとしてセブンイノベーション財団2名）が出席して意見交換会を開催。
- 近況報告のほか、それぞれの地域活動の取組状況と課題を共有したうえで、地域循環共生圏づくりに取り組むうえで地域の課題感、中間支援の必要性、難しさ等について意見・情報交換を行うことができた。



プログラム	時間	協働コーディネーターにお話したいこと
自己紹介と近況報告	4分30秒	【金澤】自己紹介、活動の近況報告など
1 長野県NPOセンター吉田さんのご紹介	4分30秒	【金澤】活動の近況報告、活動の近況報告、活動の近況報告、活動の近況報告
2 《話題提供1》中部地方環境事務所からの情報提供・共有等	1分30秒	【金澤】活動の近況報告、活動の近況報告、活動の近況報告、活動の近況報告
《話題提供2》	2分30秒	【三田村さん】地域循環共生圏事業（昨年度EPO事業、今年度事業）による取組紹介
3 協働コーディネーターから地域循環共生圏事業、EPO連携事業の紹介	4分30秒	【吉田さん】昨年度EPO事業「地域循環共生圏づくりフォーラム」の取組の振り返り、今年度事業に関する取組紹介
4 《話題提供3》EPO 中部から	1分30秒	【松さき・茶木さん】地域循環共生圏「食」フォーラムの企画 など
5 休憩	1分30秒	EPO 中部事務局との取組、活動の近況報告 など
6 10時14分への質問時間	8分30秒	地域活動での課題感、地域循環共生圏づくり、中間支援団体（中間支援機関）のあり方について など
終了	10分	

#### 参考）協働コーディネーター意見交換会で提示された主な意見等

##### 地域循環共生圏づくりと中間支援

- 地域循環共生圏づくりにおける中間支援の重要性を本会で再確認できた。中間支援主体の育成に向けた取組が必要とされている。
- 中間支援者／コーディネーターの活動は収益確保が難しく、自身も事業を展開しなくてはならないのが実情である。
- 地域づくりの中間支援は、住民の幸せ度を上げることを目指し、共感を形にする必要がある。

##### 放置竹林の活用（※放置竹林の整備・活用等に取組むコーディネーターが複数名いる）

- 地元産業の活性化には、地元資源の活用が重要である。
- 特に、竹は、持続可能な資源であり、プラスチックの代替品として有望であることから、竹の利用促進を図ることで、地元産業の活性化にも寄与する可能性を有しているのでは。

##### 地域（活動）における課題等

- 地域活動や環境活動においても、経済性を考慮したソーシャルビジネス化が重要となっており、その勉強会等EPOで開催してほしい。
- 地方では、就労の場不足等の問題と共に、交通手段・二次交通の問題が地域活性化の大きな障害となっている。また、地域の少子高齢化対策には移住政策と共に、地域住民が住み続けたいと思えるような、地域の活力向上策の両面が必要である。

##### そのほか

- 協働コーディネーターを新たに育成する必要がある。

# 地域循環共生圏への貢献についてのフィードバック（活動評価手法の検討）

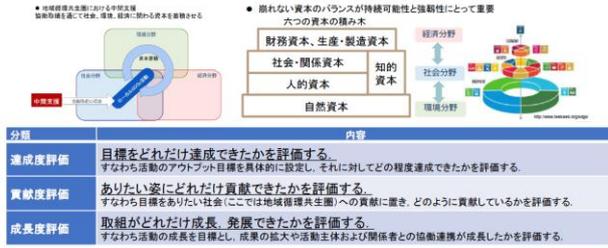
- 活動評価手法検討ワーキングを3回実施し、地域循環共生圏づくりの活動評価のあり方について検討を行った。

催事名	開催地	設営	開催日	出席者	実施内容等
活動評価手法検討ワーキング（全3回）	富山県富山市	リアル	6月5日	委員3名 クローズド会合	● 第6期評価手法実績共有、第7期検討計画策定
	EPO 中部（愛知県名古屋）	リアル	9月18日		● 評価実績を活用した事例検討（2事例）
	福井県坂井市	リアル	11月12日		● 事例フィードバックの検討と課題抽出

## 6. 活動評価手法の検討

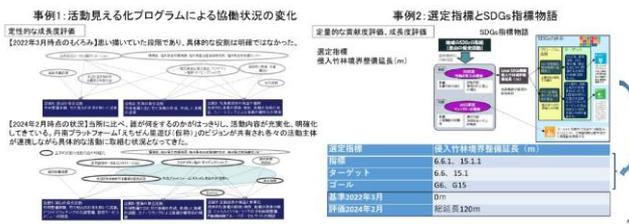
有識者によるワーキンググループ  
 古澤礼太 中部大学国際ESD・SDGsセンター准教授、中部ESD拠点協議会事務局局長  
 水上聡子 EPO中部運営委員、アルマス、バイオコスモス研究所代表  
 堺 勇人 EPO中部運営委員、一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま（PECとやま）事務局局長  
 原 理史 中部地方ESD活動支援センター、中部大学国際ESD/SDGsセンター研究員  
 【オブザーバー】 環境省 中部地方環境事務所環境対策課  
 【事務局】 清本三郎 中部環境/パートナーシップオフィス（EPO中部） 統括

価値基準：ローカルSDGs活動の効果が環境、社会、経済の各分野に波及し、それにより、環境、社会、経済のそれぞれに関わる分野の資本が蓄積されること（六つの資本による活動評価チェックリストを作成）



## 既存のツールを用いた活動評価手法の検討

分類	内容	活動見える化プログラム	SDGs指標物語	測定指標
達成度評価	目標をどれだけ達成できたかを評価する。	-	-	目標を定めた場合は、達成状況を定量的に評価
貢献度評価	ありたい姿にどれだけ貢献できたかを評価する。	活動内容が社会、経済、環境のどの分野か、SDGsのどのゴールに貢献しているかを可視化して定性的に評価	測定指標がSDGsのどのグローバル指標、ターゲット、ゴールに定量的に評価【事例2】	貢献しているグローバル指標、ターゲット、ゴールにおける成果を定量的に評価【事例2】
成長度評価	取組がどれだけ成長、発展できたかを評価する。	協働ネットワークが現状のように広がっているかを可視化、複数の時点と比較して変化を示すことで成長度を定性的に評価【事例1】	-	複数の時点と比較して変化を示すことで成長度を定量的に評価【事例2】



- 活動評価検討ワーキングの検討結果として「活動評価チェックリスト」を作成し、富山県の協働コーディネーターの取組2件で試し、そのアウトプットをフィードバックした。

## 里山の駅つるぎの味蔵の純国産メンマプロジェクト

その取組は地域循環共生圏に貢献する資本増加に繋がるのか、評価チェックリスト（試行） 作成 250221

テーマ	富山県上市町 里山の駅つるぎの味蔵 概要	純国産メンマプロジェクト	評価項目	チェック	チェックの判断理由
活動状況		放置竹林という地域課題への対応が可視化されることで関係者への認知力が増し、持続的に活動が進んでいる。純国産メンマのストーリー化とブランディングにより販売は順調に活動は拡大傾向にある。			
六つの資本					
1財務資本 (地域循環 財務資本) 地域内での経済循環になっているか			● 味蔵にお金を落とすようになっているか ● 地域への投資になっているか ● その他「地域所得の増加に貢献している」	○	里山の駅つるぎの味蔵の重要商品として地域外資を確保
2製造資本 (地域循環 生産・製造資本) 地域資源・エネルギーが持続可能な形で使えているか			● 地産地消を目指しているか ● 資源循環を目指しているか ● 再生可能エネルギーを使おうとしているか ● 節電・減炭に密に立っているか ● その他	○	地域の竹林からの資源を有効活用している
3知的資本 (地域共生 知的資本): 地域の文化、知恵などが生かされているのか、水準の高い知見が用いられているか			● 様々な場面で教育を進めようとしているか ● 住民自治を取り入れようとしているか ● 伝統的技術・知恵を活用しようとしているか ● 高等教育の導入しようとしているか ● ICT活用を進めようとしているか ● その他	○	伝統的技術やメンマ製造など学校教育や社会教育のフィールドとして機能している。
4人的資本 (地域共生 人的資本): 地域の多様な人々が共生できているか			● 主体的・意欲的な人がいるか ● 多様な・責任感のある人がいるか ● 信頼関係を築いているか ● その他	○	タケノコ取りやメンマ製造に積極的に関わる地域の人の、従業員が増えている
5社会関係資本 (地域共生 社会関係資本): 地域の繋がりが、コミュニティづくりにつながっているか			● 対話型の議論・交流を作ろうとしているか ● 相互信頼を醸成しようとしているか ● 公正に働き合っているか ● 共助を取り入れようとしているか ● その他	○	タケノコ取りやメンマ製造に積極的に関わる地域の人の、従業員の交流が生まれている
6自然資本 (地域循環共生 自然資本): 地域の自然・生物多様性が守られているか			● 生物多様性を守ろうとしているか ● グリーンインフラ・景観の向上に配慮しているか ● 自然資源を保全しようとしているか ● 自然資源の健全活用を進めようとしているか ● 自然資源を持続可能な形で使おうとしているか ● その他	○	竹林整備で山形の保全が図られる
ローカル SDGs 活動としての総合評価		地域の課題解決の貢献し、6つの資本すべてについて増加させる機能を果たしている。プロジェクトとして地域循環共生圏構築に貢献していると評価できる。			

## メグスリノキのお茶、九宝茶の開発、販売

その取組は地域循環共生圏に貢献する資本増加に繋がるのか、評価チェックリスト（試行） 作成 250224

テーマ	富山県上市町 メグスリノキのお茶、九宝茶の開発、販売	概要	大岩山日石寺で新種日石茶に伝統的に蓄る舞われるメグスリノキのお茶を健康茶と地元産品として商品化、販売	評価項目	チェック	チェックの判断理由
活動状況				商品開発とホテル・土産物店等の販路の確保に成功し、ストーリー化、ブランディングによる事業が持続的に行われている。当初もくろみでいた地元産品による製造については困難が伴い断念。また事業への関係者の巻き込みは十分ではなく、一企業の製造販売事業として活動。		
六つの資本						
1財務資本 (地域循環 財務資本) 地域内での経済循環になっているか				● 地域にお金を落とすようになっているか ● 地域への投資になっているか ● その他「地域所得の増加に貢献している」	○	富山県上市町に所在する製造販売業の売り上げとして地元産品に貢献
2製造資本 (地域循環 生産・製造資本) 地域資源・エネルギーが持続可能な形で使えているか				● 地産地消を目指しているか ● 資源循環を目指しているか ● 再生可能エネルギーを使おうとしているか ● 節電・減炭に密に立っているか ● その他	△	製造販売が地域外の販路が広く、十分な貢献にできていない
3知的資本 (地域共生 知的資本): 地域の文化、知恵などが生かされているのか、水準の高い知見が用いられているか				● 様々な場面で教育を進めようとしているか ● 住民自治を取り入れようとしているか ● 伝統的技術・知恵を活用しようとしているか ● 高等教育の導入しようとしているか ● ICT活用を進めようとしているか ● その他	○	梅の文化・知恵が活かされている
4人的資本 (地域共生 人的資本): 地域の多様な人々が共生できているか				● 主体的・意欲的な人がいるか ● 多様な・責任感のある人がいるか ● 信頼関係を築いているか ● その他	○	オンライン販売を実施している
5社会関係資本 (地域共生 社会関係資本): 地域の繋がりが、コミュニティづくりにつながっているか				● 対話型の議論・交流を作ろうとしているか ● 相互信頼を醸成しようとしているか ● 公正に働き合っているか ● 共助を取り入れようとしているか ● その他	△	当初のめくろみである、関係者の巻き込みを断念した。
6自然資本 (地域循環共生 自然資本): 地域の自然・生物多様性が守られているか				● 生物多様性を守ろうとしているか ● グリーンインフラ・景観の向上に配慮しているか ● 自然資源を保全しようとしているか ● 自然資源の健全活用を進めようとしているか ● 自然資源を持続可能な形で使おうとしているか ● その他	△	当初のめくろみである、関係者の巻き込みを断念した。
ローカル SDGs 活動としての総合評価				地域の財務資本増加には貢献しているものの、当初のめくろみから離れた地域外の製造販売を用いており、人的資本、社会資本、自然資本の貢献も図られない。ローカルSDGs 活動としては不十分と評価される。地域課題への対応との関連性を可視化できず、関係者の巻き込みがうまくいかなかったとの自覚も見解が重要な原因と考えられる。		



## ■ 身近な自然資本活用に関する意見交換会の開催

- 中部地方環境事務所が企画した次の催事を EPO 中部が運営・開催協力した。

催事名	開催地	設営	時期	参加等	登壇者・実施内容等
SDGs AICHI EXPO 2024 出展ブース運営(3日間)、中部事務所主催ステージ企画協力(1日間)	愛知県常滑市	出展	10月10-12日	— (86品売上)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• WoW キツネザルさんによるステージイベント、自然共生サイト等生物多様性保全の取組紹介</li> <li>• ブース出展: 生物多様性配慮商品6種(EPO 仕入れ等)の販売、中部事務所提供ポスター掲示、着ぐるみ(ボジー)実施 など</li> </ul>
白山エリアの交流人口増加を考えるシンポジウム	石川県野々市市	リアル	2月9日	41人	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 有識者によるインタープリテーションの概説、事例紹介</li> <li>• 地元活動主体によるインタープリテーションの取組紹介</li> <li>• 登壇者・関係者によるパネルディスカッション</li> </ul>

### 身近な自然資本の活用に関する意見交換会等

#### 【SDGs愛知expoの出展ブース運営】

- 10月10-12日にかけて、愛知県常滑市で開催されたSDGs愛知expoにて、中部地方環境事務所出展ブースの運営(3日間)と、中部事務所主催ステージ企画への協力(1日間)を実施。
- ブースでは生物多様性に配慮して生産されたお米などの商品6品を展示販売。計86品を売り上げた。



↑ブースにて、自然生態系に配慮した商品を展示販売

#### 【白山エリアの交流人口増加を考えるシンポジウムを開催】

- 2月9日に、石川県野々市市で、「白山エリアの交流人口増加を考えるシンポジウム ～白山の魅力を伝えるインタープリテーションを語る～」を開催。
- インタープリテーションとは何かについて専門家による概説と地域活動者を交えたパネルディスカッションを実施し、白山国立公園・ジオパーク・ユネスコエコパークの関係者等の参加者41人が聴講した。



8

## ■ グリーン社会実現に向けたステークホルダー連携促進事業

- 中部地方環境事務所が企画した次の催事を EPO 中部が運営・開催協力した。

催事名	開催地	設営	時期	参加等	登壇者・実施内容等
Let's エコアクション in AICHI の中部事務所出展ブースの運営	愛知県名古屋市	出展	11月2日	WS参加 42人	協力: 一般社団法人リデザインプロジェクト ブース出展: 端布によるリース作成ワークショップを実施、関連作品・活動紹介パネル、資源循環関連パネルの展示 等
環境へのアプローチを活かした鳥羽エリア創発ミーティング	三重県鳥羽市	リアル	1月15日	17人 クローズド会合	取組発表: 22世紀奈佐の浜プロジェクト、鳥羽市のブルーカーボン(藻場再生)の取組 グループディスカッション: 鳥羽エリアにおける 2050 年に向けた環境アクションのアイデアを考える
地域脱炭素の実現に向けた事業者・金融機関向けセミナーin 北陸	福井県福井市	ハイブリッド	1月29日	会場 88人 webex140	主催: 環境省中部地方環境事務所、経済産業省近畿経済産業局、財務省北陸財務局、中部環境パートナーシップオフィス(EPO 中部)、株式会社福井銀行、株式会社福邦銀行、共催: 福井県
中部共進化座談会	愛知県名古屋市	リアル	3月7日	8人 クローズド会合	外部有識者 8 名とともに、地域循環共生圏を基盤とした地域共進化について議論する座談会を実施

### グリーン社会実現に向けたステークホルダー連携促進業務 1/2

#### 【Let's エコアクションinAICHIにブース出展・ワークショップを実施】

- 11月2日に、Let's エコアクションin AICHIにブース出展し、未利用繊維を用いた作品展示、端布を利用したリース制作ワークショップを実施し、42人が参加。
- SDGsのG12「つくる責任」・サーキュラエコノミーの普及啓発を行った。



#### 【環境へのアプローチを活かした鳥羽エリア創発ミーティング開催】

- 2023年度に続き、鳥羽市で「環境へのアプローチを活かした鳥羽エリア創発ミーティング」を1月15日に会場: 鳥羽商工会議所で開催し、市環境課、企画財政課、農林水産課、観光高工課の職員・計17名が参加。
- 「鳥羽エリアの未来を彩る私たちの環境アクションfor2050を考える」をテーマに、鳥羽市及びその周辺エリアのカーボンニュートラル実現に向けて必要なアクションとは何かをグループワークと共にディスカッションを実施。



### グリーン社会実現に向けたステークホルダー連携促進業務 2/2

#### 【地域脱炭素の実現に向けた事業者・金融機関向けセミナーin北陸の開催】

- 昨年度に能登半島地震のため開催延期となったセミナーを改めて企画調整を行い、1月29日に開催。
- 会場となった福井銀行(本店)の協力もあり、北陸地域の金融機関・事業者・行政機関等から、会場参加88人、webex参加140人と多数の参加があった。



#### 【中部共進化座談会の開催】

- 地域循環共生圏を基盤とした地域共進化による社会再形成について議論する「地域共進化」の座談会を3月7日に名古屋市内で開催。
- 地域共進化推進の事業コンセプトを描くことを目標に、令和7年度に検討する地域循環共生圏形成のための政策提言のキックオフと位置づけ実施。

# 中部地方 ESD 活動支援センター業務

## 中部地方 ESD 活動支援センター主催イベント/会合

催事名	開催地	設営	時期	参加者	内容
中部地方 ESD 推進ネットワーク地域フォーラム	名古屋	ハイブリッド	9月19日	27人 (会場4、zoom23)	<ul style="list-style-type: none"> <li>第7期共通テーマ: 社会と学校の ESD ネットワーク</li> <li>2024年度テーマ「ESD: 地域・学校と大学連携」</li> <li>地域と学校、学校と学校の連携に関する話題提供とディスカッション</li> </ul>
SDGs学生サミット	—	オンライン・配信	2月1日	111人 (学生23、関係者14、当日視聴者74)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ユースに対する SDGs 活動交流を通じた ESD の場の設営</li> <li>学生、生徒の取組発表、社会人の話題提供</li> <li>交流ディスカッション</li> </ul>
自然資産を活かした ESD ダイアログ	飛騨高山	リアル	11月22日-23日	32人	<ul style="list-style-type: none"> <li>第7期共通テーマ: 山と水と人間と/2024年度テーマ「飛騨高山からの ESD 発信」</li> <li>1日目 ESD ダイアログ: 基調講演、取組発表、ディスカッション</li> <li>2日目エクスカージョン(飛騨エリアのジオ関連地域資源等の視察)</li> </ul>

### ESD推進ネットワーク地域フォーラム (9/19)

- テーマ: ESD: 地域・学校と大学連携
- 目的: ESD活動の情報共有と意見交換
- 時期: 2024年9月19日(木) 13:00~15:40 (ふりかえり交流~16:30)
- 対象: 一般参加者、中部地方ESD拠点、関係ステークホルダー
- 開催方法: ウィンクあいち907会議室、ハイブリッド



参加者 27名(地域ESD拠点:会場参加4名、一般・地域ESD拠点等オンライン参加23名)

### SDGs学生サミット (2月1日)

- テーマ: ESD: 地域・学校と大学連携
- 目的: SDGs活動の発表と議論
- 時期: 2025年2月1日(土) 13:00~17:30
- コア参加
  - SDGs関連活動に取り組む大学生、高校生、地域連携など
  - 基礎自治体、企業、NPO等のSDGs取組
- 一般対象: ユース(大学生、高校生など)、一般市民
- 開催方法: オンライン(ハブ: 中部大学DEJルーム)



参加者 学生、高校生:23名 その他関係者:14名

### 自然資産を活かした地域・人づくりESDダイアログ (11月22、23日)

第7期(令和6年度~8年度)共通テーマ: 山と水と人間と  
主催: 中部地方ESD活動支援センター

<ESDダイアログの概要>  
2024年度テーマ「飛騨高山からのESD発信」  
場所: 飛騨高山まちの博物館研修室、中部山岳国立公園奥飛騨ビジターセンターなど  
対象: 自然保護関係者・ガイド、教育関係者・学生・生徒、市民、観光関係等

1日目 ESDダイアログ  
2日目 エクスカージョン  
・飛騨・北アルプス自然文化センター(平瀬ビジターセンター) など

参加者  
1日目 ESDダイアログ: 32名  
2日目 エクスカージョン: 8名



## 多様な主体の連携促進、交流の機会の提供(学び合いプロジェクト)

- 中部エリアの学び合いプロジェクトとして、気候変動社会教育・社会への実装「学び合いの場の作り方」をテーマに、有識者検討会で企画検討を行った上で、学び合いの場(セミナー方式)計2回と、実践活動(1回)を実施した。

### 5. 学び合いプロジェクト

学び合いプロジェクト有識者検討会  
古澤礼太 中部大学国際ESD・SDGsセンター准教授、中部ESD拠点協議会事務局局長  
水上聡子 EPO中部運営委員、アルマス・バイオコスモス研究所代表  
堺勇人 EPO中部運営委員、一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま(PECとやま)事務局局長  
原 理史 中部地方ESD活動支援センター、中部大学国際ESD/SDGsセンター研究員  
【オブザーバー】環境省 中部地方環境事務所環境対策課  
【事務局】清本三部 EPO中部統括

気候変動社会教育・社会への実装「学び合いの場の作り方」(2024)



準備会合  
第1回研究会(8/5) ESDワークブックを活用したワークショップ手法の検討と検証計画  
第2回研究会(9/18) 学び合いの場企画ワークショップ結果の検証、開催手法の取りまとめ、冊子と動画の構成案検討

実践活動  
・学び合いの場1の開催(8/23)  
・学び合いの場2の開催(11/7)  
実践活動(11/11) 学び合いの場企画ワークショップと運営シミュレーション

全国フォーラムへの参加(12/1)

とりまとめとプロトタイプ作成、公開

### 学び合いプロジェクト有識者検討会

学び合いプロジェクト有識者検討会  
古澤礼太 中部大学国際ESD・SDGsセンター准教授、中部ESD拠点協議会事務局局長  
水上聡子 EPO中部運営委員、アルマス・バイオコスモス研究所代表  
堺勇人 EPO中部運営委員、一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま(PECとやま)事務局局長  
原 理史 中部地方ESD活動支援センター、中部大学国際ESD/SDGsセンター研究員  
【オブザーバー】環境省 中部地方環境事務所環境対策課  
【事務局】清本三部 EPO中部統括

富山	6/5	ESDワークブックを活用したワークショップ手法の検討と検証計画
名古屋	9/18	学び合いの場企画ワークショップ結果の検証、開催手法の取りまとめ、冊子と動画の構成案検討
福井	11/12	活動のとりまとめ、冊子と動画のプロトタイプ作成 課題の抽出、次年度の計画

### 学び合いの場①学生向けワークショップ

開催 2024年8月23日(金)14:00～15:30(90分)  
 場所 愛知教育大学116サイエンスアクティビティルーム  
 目的 ESDワークブックを用いた「学び合いの場づくり」実施者研修用プログラムの試行  
 内容 大学ゼミと連携した学生向け、学び合いの場企画ワークショップ

○配役と役割：4人で構成  
 A：出展当事者  
 B：大学祭に行こうと思っている一般人  
 C：大学祭の委員  
 D：顧問の先生、司会と記録を担当

○シチュエーション  
 SDGs社会教育のイベントの企画書を作成する。  
 ○ディスカッションを元に企画書を作成する




参加者18名  
 (EPO・環境省除出席者数)

### 学び合いの場②推進員向けワークショップ概要とテーマの設定

開催 2024年11月7日(木)10:10～12:00 ウィンク あいち 1303会議室

WS概要  
 【解説】ESDとしての「学び合いの場」づくりについて  
 【ディスカッション】企画づくりテーマ設定  
 【ディスカッション】学び合いの場の形式検討  
 【ワーク】学び合いの場の企画づくり  
 【ワーク】企画した学び合いの場についてのSDGsチェック  
 【ワーク】ベスソナワークショップによる企画のブラッシュアップ  
 【プレゼン】議論した内容を発表

<参加者>  
 中部ブロック温暖化防止活動推進センター職員、推進員 25名

【テーマ分野】  
 1. 食を巡るつながりから気候変動を考える【食】  
 2. 人の移動(交通)から気候変動を考える【交通】  
 3. 家のつくりや生活から気候変動を考える【家庭】  
 4. 流域地形や自然災害から気候変動を考える【防災】  
 5. 自然環境への影響から気候変動を考える【自然】

【テーマの例】  
 1. 食品ロスを抑えるためにできること  
 2. 公共交通を使おう！ワークショップ  
 3. ZEHの良さを知って住み替えを考えよう  
 4. 気候変動は地域の豪雨被害の原因か  
 5. 外来種が多くなっているのは気候変動の影響か

### 実践活動：福井県坂井市職員向けワークショップ概要

開催 2024年11月11日(月)15:00～16:30 坂井市役所 3F大ホール  
 2024 ESD for SDGs実践セミナー「学び合いの場づくり」実施者研修  
 <参加者> (坂井市教職員 全39名、9チーム)市役所職員(14名3チーム)、コミュニティセンター職員(17名4チーム)、中学校教員(8名2チーム)

WS概要  
 【解説】ESD for SDGsとしての「学び合いの場」づくりについて  
 【ディスカッション】企画づくりテーマ設定  
 【ワーク】企画した学び合いの場についてのSDGsチェック  
 【ワーク】学び合いの場の企画づくり  
 【ワーク】ベスソナワークショップによる企画のブラッシュアップ  
 【プレゼン】議論した内容を発表

テーマ案  
 1誰かが自分らしさを活かして地域に貢献しながら自己実現していけるまちづくりについて話し合う場  
 2一人一人の人権と多様性を大切に、お互いを尊重できるまちづくりについて話し合う場  
 3坂井市で結婚したり、移住定住(Uターン、Iターンetc.)したくなるまちづくりについて話し合う場  
 4子どもや若者が地元愛やふるさと意識、well-beingを実感するまちづくりについて話し合う場  
 5環境面ですらに持続可能なまちになるためのライフスタイルについて話し合う場  
 6さらに安全安心でレジリエンスが高いまちになるための地域づくりについて話し合う場

## 冊子・動画の作成、公表・配布

- 有識者検討会のとりまとめ結果として、冊子(ワークショップ用ツール資料)と動画を作成し、学び合いの場①②、実践活動で活用したほか、ウェブサイトで公開するとともに関係者への配布等を行った。

セミナーなどの企画運営者を育てる！

気候変動教育～ESD学び合いの場づくり企画ワークショップ【やり方と解説】

「ESD学び合いの場づくりワークブック」を使って・・・



環境省EPO中部・中部地方ESD活動支援センター  
 学び合いプロジェクト有識者検討会(2025年3月)

### ESD学び合いの場づくり企画ワークショップ

●企画運営者のESDスキルアップを図ります  
 地球温暖化防止活動などの普及啓発や出前授業などで、気候変動教育としての機会を充実させるため、様々なESDとしての学び合いの場の企画運営スキルの向上を目指す。

**ワークショップのミッション：気候変動教育の場の企画書を作る**



・最終的に左の用紙に記入したり付箋を貼ったりしてESDの場の企画書案を作成します。  
 ・全部で120分程度の時間枠を想定しています。  
 ・4～5人のグループいくつかで行うことを想定しています。  
 ・左の用紙は個人で書き込めるA3程度でも良いですが、グループメンバーみんなで話し合えるように、できるだけ大きなものを使いましょう。  
 ・中部地方ESD活動支援センターが作成した「ESD学び合いの場づくりワークブック」を教材として使います。

### ワークショップのプログラム

時間配分の例

10分	【アイスブレイク】自己紹介とリーダー選任	グループでの作業を円滑に進めるためにお互いを知り、リーダーを選びます。
20分	【インプット】ESDとしての「学び合いの場」づくりについて	ワークショップの目的と意義について説明します。企画運営者のESDスキルアップを図る重要性を理解してもらいます。
25分	【ディスカッション1】SDGs学習も考慮したテーマの設定	グループごとに企画する「学び合いの場」のテーマをSDGsも考慮して決めます。普段からやりたいと思っているテーマがよいでしょう。
15分	【ディスカッション2】学び合いの場の形式検討	セミナーなのかワークショップなのか、どのように形式で「学び合いの場」を作るのか検討します
10分	<休憩>	必ず休憩を入れましょう
20分	【ワーク1】学び合いの場の企画づくり	グループごとに話合って実際の企画を考えていきます。その内容を用紙に貼ったり、記入します
10分	【ワーク2】企画内容のSDGsチェック	記入した企画がSDGsの学びに貢献するかをチェックします
20分	【ワーク3】企画のブラッシュアップ	考えた企画でいいかどうかを検討します。別人になりますと忌憚のない議論ができます。
10分	【プレゼン】議論した内容を発表	議論の内容を共有しましょう

### ESDワークブックを活用して企画運営するために！

ESDを実施する企画運営者スキルアップのためのワークショップパッケージ(試案)を公開・解説しています

URLはこちら⇒ <https://www.epo-chubu.jp/tool/esdworkbook>

ESDワークブック

ワークショップパッケージ(試案)スライド

ESD学び合いの場づくり企画ワークシート(Vr.2)

ワークショップパッケージ説明動画 <https://youtu.be/NQapU4dz7M>

## ■ 教育現場の実態把握と連携強化

- SDGs の取組と ESD 実践の専門家、推進を目指す教育現場関係者、中小企業経営者等にヒアリングを実施し、連携強化と情報収集を行った。

ヒアリング結果の一部抜粋	
大学 特任教授	<p>○我が国の ESD 推進全般についての現状の課題と将来についての考え</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 新型コロナ感染症の影響で社会は劇的に変化した。例えば学校にはタブレット端末が一人一台整備された。大きな社会影響は教育現場にその転換を促進する効果があると言える。そうした意味では教育現場を ESD に向けて推進する重要な社会的影響が二つ考えられる。それは気候変動影響と南海トラフ地震の社会リスクの増大である。</li> <li>▪ これらのリスクによる地域の課題解決について議論し、気候変動や災害の教育を入口とした ESD の推進を図ることは、地域の持続可能性と強靭性を高めるためにも重要と考える。</li> </ul> <p>○環境省 EPO 中部・中部地方 ESD 活動支援センターなど中間支援組織への期待</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 中部地方は東海側と北陸側とでは地域の認識に大きな差があるかもしれない。気候変動の影響一つとっても東海地域は暑熱や台風、北陸側では大雪の影響が気になるだろう。また、都市部と中山間地では、まったく地域社会の課題が違う。こうした多様な地域特性を踏まえて ESD 支援を行うことが重要だと考えられる。</li> <li>▪ 特に東海地方の地域にとって、暑熱異常や、豪雨災害、南海トラフなど、中部地方 ESD 活動支援センターには防災など地域特性からのアプローチを期待している。</li> </ul>
高校教諭 (農学科)	<p>○今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 生徒たちの自分事化になりにくいことが問題と感じている。地球環境問題を深刻に捉えることが難しい。例えば畜産の CO2 排出量を取り上げたりしているが、だからといって CO2 排出量の多い牛肉パテのハンバーガーをやめて鶏肉の唐揚げにしようという話にはならない。</li> <li>▪ 様々な産業の関連性で循環することが本当に良いのかということについて、多面的に見て教育しているか疑問なところもある。</li> </ul>
小学校 校長、教諭	<p>○今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ かつての ESD 研究成果が根付いているかとなると疑問が残る。どうすればその成果を継続定着できるかを問題意識として持っている。</li> <li>▪ ESD の研修会を行って先生方に気をつけてもらってはいるが、プログラムをなぞっている状態で魂が込められていないのではないかと。実際にはプログラムや行事を行うのが精一杯な状態なので、いかに先生方の納得と理解が得られるかが問題となる。</li> </ul>
印刷デザイン 会社 代表取締役	<p>○SDGs/ESD の取組の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ あまり課題として深刻に考えていない。できる範囲で市外にも広げており、ニーズがあれば地域外でも手伝うことを考えたい。バランスが大事だと思う。</li> <li>▪ (お金ではなく)豊かさとは何かということを考えながらの取組が大切だと思う。Wellbeing はその結果として評価されるべきものかもしれない。</li> </ul>
不動産会社 代表取締役	<p>○SDGs/ESD の取組の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 教育ということ言えば、その陰の部分を見るべき。例えばいじめとか、不登校とか、引きこもりとか。その一部でも社会にちゃんと参加したら重要なプレイヤーになるはず。</li> </ul> <p>○SDGs/ESD の取組の今後の期待</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 弱者に対する愛がほしい。稼いでいる企業ほど SDGs の思想が足りない。正直者が馬鹿を見る構造になっている。SDGs が選ばれる社会になってほしい。そのためには消費者へのうまい発信の仕方が必要。一つ間違ると SDGs の偽善者(SDGs ウォッシュ)になる。</li> </ul>

## ■ 代表的な行事後の行動変容の把握

- 主催イベント等で共催、企画協力等した主体を対象に、イベント等実施の成果となる参加者や関係者等のその後の行動変容について把握する簡易ヒアリング調査を計6件実施した。

業務 対象	2024年12月7日、2025年2月22日開催・地域循環共生圏フォーラム in 上市町 (全2回) 株式会社ティー・ツリー・コミュニケーションズ 茶木氏 ※EPO 中部・協働コーディネーター
内容 ・ 結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>• フォーラム開催後に、「自分にも何かできるのではないかと考えて自社(店舗)を訪問してくださった参加者の方や、発表アイデアの具体化の相談などがあり、フォーラムによってこんなに人が動いてくれるのかと大変驚いた。</li> <li>• フォーラムで出たアイデアを具体的に準備・企画するのは、地元の役割だと考えている。今後の活動として、フォーラムで発表した内容の実現に向けて進めていきたい。具体的には、地域の方々や若い世代を巻き込んだプラットフォームか、同好会や協議会のようなグループを立ち上げる必要があると考えている。まずは緩やかなつながりで、組織や会合を発足させた上でフォーラムの発表アイデアを実現する方法をメンバーと一緒に考えたい。特産品づくりなど、お手伝いできることがあれば協力していきたい。</li> </ul>
業務 対象	2025年2月1日開催・2024年度SDGs学生サミット 都留文科大学准教授 田開先生(前 松本大学専任講師)
内容 ・ 結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>• エントリーした松本大学の田開ゼミの学生は前年度の同イベントで構想段階の活動発表を行った後、本イベントでの発表も目標にして活動してきた、という意味で非常に大きな学びと行動変容があったと考えている。</li> <li>• 特に活動において行政やフィールドとした動物園との連携に齟齬が生じた段階で、中部地方 ESD 活動支援センターにオンライン相談ができたことは非常に大きな助けになったと考えられる。</li> <li>• 本イベントでの活動発表に向けて活動をとりまとめ、報告書にも反映できるという点でも効果的で、オンラインプラットフォームとしてゼミ学生の ESD に大いに役立った。</li> </ul>

(ほか4件/計6件のヒアリングを実施)

# 関係主体との連携及び協働に関する業務

## 中部地方環境事務所との情報共有及び意見交換

- 中部地方環境事務所の担当官との定期的な打合せを月1回頻度で実施し、9月以降はオンライン打合せを週1回程度行うなどして、業務の進捗状況、方向性などについて協議を計25回実施した。
- 日々の業務について、毎月、所定の様式の報告書を作成し、中部地方環境事務所へ提出した。

## 外部評価委員会への対応

- 自己評価シート、令和6年度業務実施報告資料を作成し、中部地方環境事務所へ提出した。

### 第7期・EPO中部/中部地方ESD活動支援センター 令和6(2024)年度の業務報告

2025年3月4日

### 1. EPO中部主催イベント/会合

実施地	設置	時期	参加者	テーマ/内容等	連携先/関係者/登壇者等
① 中間支援セミナー	愛知県名古屋市	オンライン 1月27日	27人	地域循環共生圏づくり支援セミナー(2024年度・入門編)	・地域循環共生圏づくりとは…NPO持続可能な社会をつくる元気ネットワーク・鬼沢先生 ・地域経済発展分析・指標分析ツール…橋本総研 ・登壇者×××WKGメンバーによるトークセッション…成泉書局
② 地域主体共有フォーラム(2回)	富山県上野市	リアル 12月7日 リアル 2月22日	28人 34人	地域循環共生圏フォーラムin上野市 みんなで描く!「つながる。」めぐる。上野市(全2回)	・富山県の協働コーディネーターお二人による連携企画…塚本氏(PE&Cとやま)、茶木氏(株式会社ティーツリー・コミュニケーションズ) ・第1回:ワークショップ編、第2回:発表&ディスカッション編
③ 協働評価手法検討WG(全3回)	愛知県名古屋市	リアル 8月28日	9人	地域循環共生圏づくりにおける「中間支援」機能とは?活動現場の課題感とは?	・既存の協働コーディネーター ・協働コーディネーターや地域循環共生圏事業等を中心に対象事例を決定
④ 活動評価WG(全3回)	富山県高山市	リアル 6月5日	※2 closed	第6期評価手法実務共有、第7期検討計画策定	※2:検討会設置(メンバー:古澤氏、水上氏、塚本氏)
⑤ キックオフ会合	愛知県名古屋市	リアル 9月18日	※2 closed	評価実績を活用した事例検討(2事例)	・協働コーディネーターや地域循環共生圏事業等を中心に対象事例を決定
⑥ 中間報告会	福井県福井市	リアル 11月12日	closed	事例フィードバックの検討と課題抽出	・課題抽出を踏まえDX導入のための専門家オプザーバー参加を検討
⑦ 全国EPO総会	富山県高山市	リアル 10月13日	closed	EPO中部が企画・運営 10/2昼食、午後:エクスカーション① 10/3全日:エクスカーション②	・登壇:協働コーディネーター企画の上市町教育材のオリジナル弁当 エクスカーション①:運営委員会による「プラトピア」 エクスカーション②:協働コーディネーター企画・案内で南砺市視察

### 2. 中部事務所企画による連携イベント/会合

区分	エリア	設置	時期	参加者	テーマ/内容等	連携先/関係者/登壇者等
⑧ 身近な自然資本を活用した意見交換会等	愛知県名古屋市	出版	10月10-12日	— (86品売上)	SDGs愛知エクスポの中部事務所出展ブースの運営(3日間)、中部事務所主催スチア企画の協力(1日間)	・WwKキナズルさんによるステージイベント、自然共生サイト等 ・ブース出展:生物多様性配慮商品6種(EPO仕入れ等)の販売 ・中部事務所提供ポスター掲示、着ぐるみ(ホビー)実施 など
⑨ グリーン社会実現に向けたステークホルダー連携促進業務	石川県野々市市	リアル	2月9日	41人	自然のメッセージを伝えるインタープリテーションによる白山エリアの自然・農産物の活用と地域交流ツーリズム企画	・有識者によるインタープリテーションの概説、事例紹介 ・地元活動主体によるインタープリテーションの取組紹介 ・登壇者:関係者によるパネルディスカッション
⑩ 環境白書を読む会	愛知県名古屋市	出版	11月2日	WS参加者42人	Let's エコアクション in AICHCの中部事務所ブース出展の運営	・協力:一般社団法人デザインプロジェクト ・ブース出展:福井によるリソース作成ワークショップを実施、関連作品・活動紹介パネル、資源循環関連パネルの展示 など
⑪ 環境白書を読む会	三重県鳥羽市	リアル	1月15日	17人	環境へのアプローチを活かした鳥羽エリア創生ミーティング「鳥羽エリアの未来を彩る私たちの環境アクションfor2050を考える」	・協力:鳥羽市/参加:市、商工会議所、漁業協同組合など ・取組発表:22世紀を担う鳥羽プロジェクト、鳥羽市のブルーホール(環境再生)の取組 ・グループディスカッション:鳥羽エリアにおける2050に向けた環境アクションのアイデアを考える
⑫ 環境白書を読む会	福井県福井市	リアル	1月29日	会場88人 webex140	地域脱炭素の実現に向けた事業者・金融機関向けセミナーin北陸	※前年度に中止延期となった企画を再調整等して開催予定 ・主催:財務省北陸財務局、経済産業省近畿経済産業局、環境省中部地方環境事務所、EPO中部/共催:株式会社福井銀行
⑬ 環境白書を読む会	中部	リアル	3月7日	closed予定	中部共進産産談会	・7名の外部有識者とともに、地域循環共生圏を基盤とした地域共生化について議論する座談会を実施
⑭ 環境白書を読む会	福井県福井市	リアル	9月29日	会場18人 webex39	令和6年版環境白書を読む会	・企画:中部地方環境事務所 ・白書概説…本省総合政策課等登壇 ・白書掲載の事例・取組の紹介…ローカルSDクリエーション登壇

### 3. 中部地方ESD活動支援センター主催イベント/会合

区分	エリア	設置	時期	参加者	テーマ/内容等	連携先/関係者/登壇者等
ESD/SDGs推進NW地域フォーラム	愛知県名古屋市	リアル	9月19日	closed	第7期共通テーマ「社会と学校のESDネットワーク」 2024年度テーマ「ESD:地域と学校の大学連携」 地域と学校、学校と学校の連携に関する話題提供とディスカッション	・基礎講座:副学長先生(白梅学園大学教授、東京農工大名誉教授、飯田市で活動中) ・地域交流拠点と「学び合い」プロジェクト有識者検討会メンバーより ・話題提供:飯田市の学域連携活動、福井県山大学連携センター ・コーディネーター:加藤先生(金沢大学)、アソシエイト:古澤先生(中部大)
SDGs学生サミット	—	オンライン	2月1日	closed	ユネスコに対するSDGs活動交流を通じたESDの場の設置 /学生、生徒の取組発表、社会人の取組提供 /交流ライブセッション	・SDG推進活動に取り組む大学生、高校生、地域連携など ・基礎講座:企業、NPO等のSDG実践 ・運営委員:21対する「イノベーション」アドバイザーの依頼 結果:伊藤先生(運営委員会委員長)古澤先生(立教大学)
自然資産を活かしたESDダイアログ	長野県長野市	リアル	11月22日	23人	第7期共通テーマ「山と水と人間」 2024年度テーマ「飛騨山からのESD発信」 1日ESDダイアログ 基礎講座、取組発表、ライブセッション 2日EKSカーション	・飛騨山麓「オー」連携協議会 ・高山市、および高山市立のユネスコワールド ・岐阜県立飛騨高山高等学校 講師:水谷清隆先生(信州大学)ESDと自然資源についてのインプット
学び合いの場(1)	愛知県名古屋市	リアル	8月23日	closed	大学と連携した学生向け「学び合い」の場企画ワークショップ	・愛知教育大学大塚先生との共催 ・学び合いプロジェクト有識者検討会メンバー
学び合いの場(2)	名古屋	リアル	11月7日	closed	地域活性化防止活動推進センター「学び」と連携した「7色未来」推進活動「学び合い」の場企画ワークショップ	・中部地方環境事務所・ESD活動支援センター(中部ブロック)の合同開催 ・学び合いプロジェクト有識者検討会メンバー
実践活動	福井県福井市	リアル	11月11日	closed	飯井市生活環境部環境推進課と連携した「学び合い」の場企画ワークショップと「学び合い」の場	・社会教育とまちづくりを対象 ・学び合いプロジェクト有識者検討会メンバー
有識者検討会	富山県高山市	リアル	6月5日	closed	ESDワークショップを活用したワークショップ手法の検討と検討計画	・中野大学ECE中野吉志氏、PE&Cとやま・塚本氏、アルマストイコシステム研究所:水上聡子、を想定(※前年度と同じ)
有識者検討会	福井県福井市	リアル	11月12日	closed	活動のとりまとめ、冊子と動画のプロトタイプ作成 課題の抽出、次年度の計画	

## 環境白書を読む会への協力

- 中部地方環境事務所が主催・企画する令和6年版環境白書を読む会の広報及び開催運営を支援した。

### ⑩ 環境白書を読む会の開催

- 9月25日に、「環境白書を読む会」を福井県越前市でハイブリッド開催。会場18人、オンライン39人が参加。
- 第1部は令和6年度版白書の概説を行い、第2部では、地元福井県の活動者、及び白書に掲載された取組の活動者と越前市職員が登壇し、活動紹介とパネルディスカッションを実施した。



参加無料

## 令和6年版 環境白書 読む会

それぞれの地域で  
それぞれの活動

**日時** 9月25日(水) 18:00~20:00

**会場** 越前市生涯学習センター eホール 定員 50名  
または  
オンライン参加 (webex) 定員 120名

**プログラム**

**第1部 環境本省から、白書の概要説明**

- 環境白書 …… 環境省 大臣官房総合政策課 環境計画室
- 総務局 社会省 …… 環境省 環境共生・資源循環局総務課 環境型社会推進室
- 生物多様性白書 …… 環境省 自然環境局自然環境課 生物多様性情報推進室
- 質実堅実

**第2部 地域の団体等からの活動紹介**

- 合同会社 ローカルSDクリエーション 代表 三田村 俊次氏
- NPO法人 日本学生生活者ネットワーク 代表 和田 光孝氏
- 越前市 環境部長 藤原 隆雄氏
- 意見交換:「地域での取組、個人の取組」

**申込方法**

\*会場参加はこちら

\*オンライン参加はこちら

主催:環境省中部地方環境事務所/共催:飯井市

## ■ 全国ユース環境活動発表大会への参画

- 全国ユース環境活動発表大会実行委員会(環境省/独立行政法人環境再生保全機構/国連大学サステナビリティ高等研究所)が主催する「全国ユース環境活動発表大会」の中部大会の審査委員として、EPO 中部からは特定非営利活動法人長野県 NPO センター・事務局長の阿部今日子氏を推薦した。
- 12月22日開催の中部大会には、EPO 中部スタッフもオブザーバー参加した。また、中部大会、全国大会の様子をEPO 中部ウェブサイトで紹介した

## ■ 全国・各地方とのネットワークの活用及び連携の確保・強化

- 全国及び地方 EPO・GEOC・ESD 活動支援センター等から招請のあった会議・イベント等(オンライン含む)にはすべて出席した。
- 第2回全国 EPO 連絡会は、富山県富山市で開催し、会議後の視察エクスカージョンなどの開催・運営を EPO 中部が担当した。エクスカージョンについては、富山県の2名の協働コーディネーターと、運営委員の協力を得て、地域側の受け入れ等について協議・調整等を行った。

### 全国EPO連絡会@富山開催

- 10月1日・2日に開催された全国EPO連絡会の地方開催が、今年は中部開催となり、富山市で開催。
- 10月2日・3日にEPO中部が視察エクスカージョンを企画することになり、運営委員・田辺氏、協働コーディネーター・堺氏、茶木氏の協力を得て、富山県上市町の食材の弁当提供、富山市内散策「ブラとやま」、南砺市の井波地区とエコビレッジ構想関係施設の見学を実施。

行程	時間・集合場所等	実施内容・訪問先等 ※一部変更の可能性あります。
10月1日(火)	懇親会 19:00~21:00 富桜 富山駅前店	富山駅南口から徒歩約5分/富山県民会館から徒歩約5分 お店のwebサイト: <a href="https://tomisakura-toyamaekimae.owst.jp/map">https://tomisakura-toyamaekimae.owst.jp/map</a>
10月2日(水)	昼食 12:15~13:15 富山県民会館701号室	機ティーツリーコミュニケーションズの未利用材活用等の取組紹介 & 富山県上市町(かみいちまち)の食材によるオリジナル弁当で昼食
	① エクスカージョン 13:30 富山県民会館701号室 集合・出発 15:30頃 富山市役所展望塔 (富山県民会館の東隣)で解散	NPOまちづくりスポットとやまによる「ブラとやま」 (2時間) 徒歩散策 【立寄りスポット】 ①富山城址、②綾曲輪レガートスクエア、③平和通り、④松川と助作川(サンシップとやま、微高地の自然堤防)、⑤常夜灯、⑥富山市役所展望塔 ※⑥富山市役所展望塔で、ガイドさんによる案内後15:30頃に流れ解散の予定です。 講師…富山大都市デザイン学部 安江健一先生 案内…立山黒部ジオパーク協会、まちづくりスポット、富山市(②説明)
10月3日(木)	② エクスカージョン 09:00 富山駅 北口駅前広場 集合・出発 (バスで移動) ※富山駅~南砺市間は、車で片道約1時間弱 16:00頃 富山駅 着・解散	(一社)環境市民プラットフォームとやま(PEGとやま)による「南砺市の井波地区のまちづくり&エコビレッジ構想」視察 (約7時間)バス移動 【訪問先】※次頁に行程表あり <午前>南砺市井波地区…木彫りのまち井波の持続可能なまちづくりの視察 <午後>南砺市エコビレッジ構想の関連施設の見学 昼食:合掌ゲストハウス かずら 案内…南砺市エコビレッジ推進課、NPO法人イナミライデザイン など



14

【参考】2024 年度業務一覧

中部環境パートナーシップオフィス運營業務  
令和6年度(2024年度)業務一覧

**第7期3か年度の目標** 2030年を見据え中部地方のローカルSDGs達成に向け地域循環共生圏に資する地域環境活動の面的拡大を加速化させます。  
**今年度目標** 既存のネットワークを活かし地域のニーズに対応した事例モデルを作成するとともに取組の組織や事例などの優良資産を発掘、把握、整理します。

